あびこの文化
発行人
藤井　吉彌
我孫子市寿
2－21－23
04(7185)
1996

第三十四回文化講演会報告

今年度の文化講演会は5月25日(日)アビスタ2階ホールに教育委員会の来賓ご出席のもと、81名の参加者を集めて開催された。

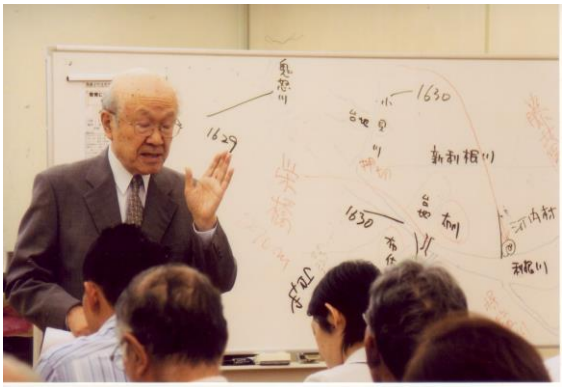
当日は「利根川、手賀沼に挟まれた我孫子の人々の営みを考える」のテーマで相原正義氏の講演が行われた。

以下はその概要である。

1　利根川「東遷」の付帯工事

・鬼怒川と小貝川の分離

近世初期の利根川は茨城県下妻付近で糸繰り状になって小貝川とつらなっていた。両川は平行しながら南下し小絹村細代(現在の茨城県つくばみらい市西部)から東南に流れ、龍ケ崎を(て)藤蔵(とうぞう)で常陸川(現在の利根川)に合流していた。これを、寛永六年(1629)に小絹と大木の間の丘陵を掘り割り鬼怒川を常陸川に落とし小貝川と分離した。



・小貝川の付け替え

寛永七年には小貝川を龍ケ崎の上流で南流させ、布川・布佐の上流の押付新田で常陸川に合流させた。また同年、布川・布佐の丘陵を掘り割って付替えられた鬼怒川・小貝川の水を流している。鬼怒川、小貝川の手賀沼への付替えは手賀沼の洪水を増やすことになる。

・布川・布佐の狭窄部

狭窄部は栄橋で270m。もともと布佐の大地と布川の台地は続いていたが、それを掘削した。何故狭窄部としたかは不明だが、一説には河道を固定し下流への流量を一定にして下流の洪水を防止するためとの考えがある。そのため常陸川は狭窄部から上流の鬼怒川合流部まで一大遊水地となった。利根川の洪水が常陸川に流入するのは文化六年(1809)に赤堀川(関宿の上流にあたる現在の利根川)を40間に拡幅してからのことである。

・新利根川

新利根川は谷原新川とも呼ばれた。寛文二年(1662)に起工し寛文六年に完成。しかしこの新利根川は寛文九年に廃止され、再びもとの河道に戻された。理由は新利根川の流路が直線で水深が浅いため船運に不都合であったため。

・将監川(しょうげんがわ)

新利根川廃止後、延宝四年(1676)に常陸川の水を布川・布佐狭窄部の下流で分派し、印旛沼の排水河川長門川に合する将監川を開削。目的は手賀沼付近の水害を防ぐため利根川の水一部を印旛沼に分流するためと伝えられている。利根川と将監川に挟まれた布鎌村(栄町)は元禄年間に開発された。

2　行商

①　行商の始まり

大正初期、高野山の農家4人が南千住駅前で踊りで人寄せし野菜を買って貰ったのがはじめと言われる。我孫子の野菜果実作付け種の推移をみると、明治30年16種、明治43年39種、昭和35年64種と推移する。また明治29年に常磐線、同34年には成田線が開通し都内へ出るのに便利になったこともその背景にある。その他外的要因としては関東大震災、昭和恐慌、第2次大戦、戦後の食糧難などがある。農家にとって当時行商による現金収入は魅力だっただろう。子供の進学資金、旅行の資金、家族へのお土産代としての楽しみもあったと思われる。

②　我孫子成田線の行商

現在でも成田線駅ホームに鉄製荷物台がある。行商が本格化するのは関東大震災と金融恐慌による米麦価格の急落だった。昭和初期には常磐線・成田線の行商人の人数は500～600人になった。その内訳は常磐線…取手28人、我孫子59人など計166人。成田線…湖北128人、布佐28人、大森88人、木下98人、本埜98人など計440人。

・やや新しい調査では以下のようなことが報告されている。

千葉県の出荷組合は3つあり、内訳は①成田線出荷組合424人②総武出荷組合50人③京成出荷組合310であった。成田線では行商の人の乗る車両が決められており、上り1番電車では10両編成の後部7両目、上り2番電車では10両編成の中央5両目が指定車両だった。行商の荷物は野菜を第1に米、餅、鶏卵、うなぎなど。荷物の重さは60kgで自分の体重をはるかに超える重さだったようだ。結果として健康を害する人も出たという。行商による収入は1日平均1～2円、当時の大卒者の平均月給が45円ということを考慮するとかなりの高収入だったと言える。身をすり減らしてでも働く要因としては不況時代であっても確実な現金収入が得られたことだろう。

昭和十三年、成常行商組合(成田線・常磐線)が結成される。昭和十四年には行商列車増発。同年十一月成常行商組合は米の移出統制緩和を県に陳情した。しかし太平洋戦争が

勃発し統制経済が強化され、行商は実質不可能になった。昭和十八年六月ついに行商組合は解散に至った。

・パラオ開拓団の行商参加について(聞き取りによる)

①手賀村片山行商は太平洋戦争前に始まった。朝4時に起床し5時前のくらいうちに片山のエマで待ち合わせ、手賀沼をサッパ船で対岸の都部(いちぶ)まで渡る。1800m歩いて湖北駅から2番電車で日暮里駅まで行き行商。お得意様は45～50軒あり、毎日25軒ほどと商いした。時にはお得意様の玄関で昼食をとることもあった。午後湖北駅に帰り、また船で帰宅。畑で野菜の手入れの農作業をし、夕方、翌日商う野菜の整理と支度をする。以上が手賀村行商人の1日である。昭和十七年手賀村片山行商人が手賀沼で水難事故に遭い6人が水死した。

②湖北駅前の八百屋兼餅屋さん・・・(八百屋の営業)夕方行商用野菜仕入れ、行商人の小売用に整理。朝5時前に店を開くと行商人が不足分や売れ筋を買いに来る。(餅屋の営業)朝3時に前日水に浸した糯米を蒸す。機械でモチを製造。季節により草餅、大福、ダンゴなどを手作りし行商人に転売した。

③昭和30年代になると各駅に銚子からトラックで魚の卸をするようになった。

3　手賀沼のウナギ

ウナギが初めて文献に出るのは『万葉集』の大伴家持の次の歌である。

「石麻呂に吾物申す夏痩せに吉しというものぞ武奈伎(むなぎ)とり食(め)せ」

手賀沼での漁獲量の1位はコイ、フナであるが、漁獲額の1位はウナギであった。

江戸時代以来ウナギは「手賀沼の代名詞」となっていた。すなわち味も良く一時は江戸のウナギの消費量の80％を占めたという(本当か?)。『湖北村誌』(大正9年)に「手賀沼のウナギは火に焙るも決して縮小しない特質。水土なるべし」とある。また霞ヶ浦、北浦のウナギを一夜手賀沼の水につけると、千住川魚市場で「手賀沼のウナギ」となり、10～20％高く売れたという。聞き取りによる手賀沼のウナギの評価は諸説あり、必ずしも手賀沼のウナギが一番とは限らない。「関東の下りウナギの最良品は「しも下り」と称する利根川産。次に「沼下り」と称する手賀沼の最も深い土地、滝前不動下より湖北村に至る地とその対岸が良品で、その他の大森に至る地域、我孫子、木下などの水の浅い地のものはいくらか質が劣る」と別府哲次郎の『うなぎ』にある。

(当日の講演と当日配布の資料により構成しました)

平成二十六年度総会終了

5月25日、講演会に先立ち、同日午後12時30分から同じ会場で会員25名が出席して平成二十六年度の総会が開催された。

第1号議案　平成25年度事業報告
第2号議案　平成25年度決算及び監査報告
第3号議案　役員選出(案)
第4号議案　平成26年度事業計画(案)
第5号議案　平成26年度予算(案)

議案の説明のあと、出席者から質問もあったが、すべての議案について原案通り可決承認された。第1号議案は報告事項につき省略し、その他の議案について以下の通り報告する。

第2号議案および第5号議案は「別紙」参照願います。

第3号議案　役員選任
(会長)　藤井　吉彌
(副会長)　伊藤　一男、越岡　禮子、美崎　大洋
(幹事)戸田　七支、村上　智雅子、斉藤　清一、折原　淳二、佐々木　侑、牧田　宏恭(新任)、柳川　幸治(新任)、酒井　陽子(新任)、佐藤　やす子(新任)
(監査)吉澤　淳一、飯高　美和子
(退任)田口　ふみ、吉田　とし子、高　康治

第4号議案
平成26年度事業計画

1. 総会、文化講演会(5月25日)
2. 史跡文学散歩(6、9、11、3月に予定)テーマ:我孫子にゆかりの文士の旧居を訪ねる
3. 放談くらぶ(偶数月第1日曜午後)
4. 文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回、1ヶ月間)
5. 「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
6. 小中学生を対象とした郷土文化の啓発活動
7. 文化活動関係団体との連携協力
8. プロジェクト活動への全員参加を進める
9. ホームページの充実
10. 杉山英先生の業績を多くの市民にPR

(プロジェクト報告)
プロジェクト関東建築探訪(第22回)
「谷中・根津・千駄木を訪ねる」

藤井　吉彌

初夏とはいえ、汗ばむ陽気の五月二八日、江戸の風情を残す谷・根・千を訪ねた。参加6人。完成したばかりの「鴎外記念館」に立ち寄り、鴎外が住んだ時代に、品川沖の白帆が見えたという鴎外の旧居を偲んだあと、前回見学できなかった「旧安田楠雄庭園」に向かう。

落ち着いたお屋敷街の中にある上流階級の、典型的な住宅。上野の岩崎邸が贅を尽くした当時の最高級住宅なら、こちらは、全く違う思いで、造られた建築であることが、見学して良く分かった。

敷地が縦長で、雁行しており、その形状を平面計画に良く生かしていた。外観は屋根瓦葺き、壁は落ち着いた土壁、木材は全て「栂」が使われている。建築史の専門家、大河直躬は「普請道楽者は金に任せて、高価な材料、いい職人を使って建てるが、安田邸は単に趣味がいいというより、ある生活理想がある」と語っている。

また、そこに住んだ藤田、安田両家が住むことを楽しむ家族であることがこの家を見学し、納得できた。

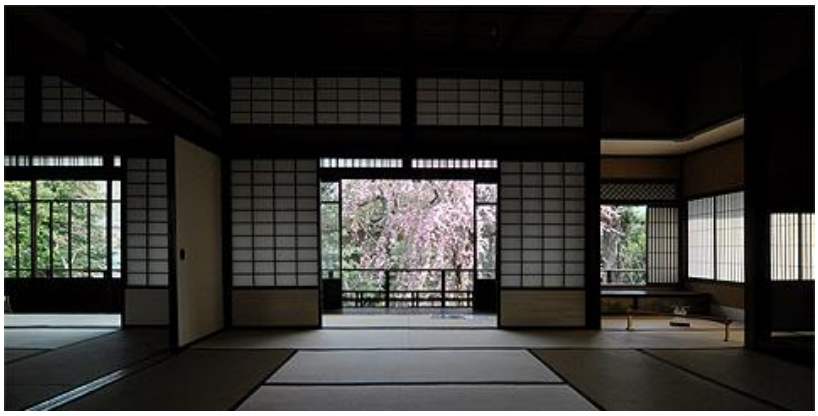
玄関は武家屋敷様式を模し、大きな沓脱石、板敷

きの式台、杉の横桟を嵌めた「舞良戸」、天井は杉柾目板の格天井。式台奥の寄り付きの襖は金泥、胡粉を使い、型紙で刷り上げられたもの、襖、障子の縁は蝋色漆みがき、壁は聚楽壁で、どっしりとした重みを感じる。

応接間は床絨毯、壁クルミ材寄木作り、蛇紋石の暖炉、天井は白漆喰、石膏の花飾りボーダー付。応接間の外側に、庭に面して造られたサンルームは、応接間側、外部共全てガラス障子で、応接間がたいへん明るい。

台所は広く、今でいうアイランド型に改造されており、天井はガラスの天窓が広く取られ、収納も工夫され、洋式厨房の走りといえる。

客間は床柱に栂の四方柾を使い、天井は細竹の竿縁天井、壁は聚楽、畳は「掛け縫い」という手縫いの最高級品。歩くと、ソフトで沈み込むように感じる。随所に木や竹で作られた欄間があり、和風の香りを演出している。庭は和洋折衷様式で造られたが、日照により枯れる場所もあり、自然体の日本風となった。



平成8年に安田家より、日本ナショナルトラストに寄贈され、大変丁寧な保存体制のもとに、維持管理され、一般公開されている。

午後一番は根津の串焼きの店「はん亭」を訪ねる。明治期の総欅造り木造三階建て、関東大震災にも耐え、今も立派に三階まで営業をやっている。登録有形文化財の典型。

次は根津に70社ある寺社の一番大きな護国院。目立たないが立派なお寺。庫裏の設計者が大正期の有名建築家、岡田信一郎とはビックリ。外観は普通の和風建築。

最後に朝倉彫塑館訪問。朝倉のアトリエ兼住宅を美術館に改造。朝倉の作品多数あり。「墓守り」は何時見ても心にずしりと響く作品だ。

安田邸は住宅の好きな方には是非ご一覧をお勧めします。（写真は安田邸の和室）

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会（第12回調査報告）

佐々木 侑

6月11日（水曜）第12回目の巨木調査が実施された。この日は梅雨入り宣言より4日目で、関東地方各地で大雨注意報が発令され、今にも雨が降りそうな中での調査であった。午後より雨の予報であったが天王台駅に7名（男性6名・女性1名）が集合し調査に向かった。

当日の調査行程：

天王台駅北口 9:00→柴崎神社 9:20→円福寺 9:40→東源寺 9:50→個人ST邸 10:00→石神社 10:20→天満宮 10:30→個人SY邸 10:45→旧水戸街道→個人SK邸 11:10→個人KM邸 11:20→個人UT邸 11:30→柴崎城跡→11:45 天王台駅北口→雨が激しく解散 11:50

【行動時間：2時間45分、歩行数：約11,500歩、調査樹木本数19本・巨木本数16本】

柴崎神社（柴崎173）

祭神は天御中主神（あめのみなかぬしのみこと）、（素戔嗚尊・蒼稲魂尊・日本武尊・別雷命・金山彦命・大山咋命）

草創は明らかではないが、日本武尊が東征のときここに武運長久を祈られ住民がその軍旅をねぎらったと語り伝えられている。平安時代には平将門の祈願所になったといい、以降相馬一門代々の守護神とされた。当社は古来妙見社と称されていたが明治初年に北星社と改め、さらに明治十三年（1880）に柴崎神社と号し、村社となって今日に至っている。

鳥居は明神鳥居・享和三年（1803）銘。社殿は本殿・相殿・拝殿からなる。

境内にはクスノキ・スダジイ・ケヤキ・シラカシなど樹木多く鎮守の森をなしているが、巨木は無い。

＊参考樹木：シラカシ（樹高21.0m 幹周285㎝）

シラカシは防風林や生垣としても利用されている。材は硬く丈夫で農具の柄や木刀、船舶建造などに利用さる。ドングリは実の半分ほどを6～8本の輪がある殻斗（かくと）に覆われている。

円福寺（柴崎172）

山号：羽黒山　宗派：真言宗豊山派　元龍泉寺末

本尊：阿弥陀三尊。

開山開基ともに不詳、過去帳に元和二年（1616）の書入れがあり江戸時代初期の草創と考えられる。

相馬霊場第55番札所。

本堂：宝形造・向拝付、銅板葺。太子堂・鯖大師堂・不動堂あり。

＊センダン（樹高27.7m・幹周318㎝）　5～6月に薄紫色の小さな花が咲く。秋に楕円形の黄色実が枝一面につき、落葉後も木に残るさまが数珠のようであることから「センダマ」（千珠）の意で命名された。材は建築用装飾・家具・下駄などに用いられる。「梅檀は双葉より芳し」の梅檀は白檀という木である。

＊イチョウ（樹高26.7m・幹周373㎝）雌雄異株で雌株は秋に「ギンナン」がなる。

東源寺（柴崎170）

山号院号：青龍山医王院　宗派：曹洞宗　元法岩院末　本尊：薬師如来。

寺伝に、天文九年（1540）北条氏三代氏康の開基という。山号院号は氏康の定めたところであり本尊薬師如来は氏康守護を祈念した仏であったとされている。

相馬霊場75番札所。

本堂：四柱造瓦葺・唐破風屋根の玄関付。　大師堂：四柱造瓦葺向拝付。

境内に光音手植えの県指定天然記念樹「榧ノ木」あり。

＊カヤノキ（樹高 18.7m・幹周 456 ㎝）

千葉県天然記念物指定説明板によると「東源寺の榧ノ木：根回り 6.3m、目通り 4.5m、樹高 24m、推定樹齢250年、榧はイチイ科の常緑喬木で材質は硬く碁盤等に使われます。古くは丸木舟・仏像等にも利用されました。本樹は相馬八十八ヶ所を開基した光音禅師お手植えの樹と伝えられ県北有数の巨木です。平成4年10月10日」

＊参考樹木：クスノキ（樹高 15.7m・幹周 263m）我孫子市指定保存樹木

個人邸　ST 氏邸（柴崎 817）

広大な邸宅の塀沿い入口付近に、見るからに老木のエノキがヤドリギを付着させ風情をかもし出している。

＊エノキ（樹高 8.9m・幹周 301 ㎝）

裏庭の農作業小屋付近にケヤキの巨木が2本すっくりと天を衝いて聳えている。

＊ケヤキ（樹高 31.8m・幹周 363 ㎝）

＊ケヤキ（樹高 31.8m・幹周 351 ㎝）

石神社　（所在地番不明）

「いぼ取り」にご利益あるとの言い伝えがあるようだが、当神社の謂れの記載史料不明。

小高い丘に祠があり、丘の周囲には自然の樹木が多く鎮守の森をなしているが巨木はない。

天満宮　（所在地番不明）

鳥居には天満宮との扁額が掲げられている。地元の人に秘かに祀られている神社の様子が窺えるが当神社の謂れの記載史料不明。将門伝説にも関係する神社であるとのことも伝え聞くが定かでない。残念ながら、小さな社殿の周りの樹木は伐採されて根株のみが何本も確認出来た。以前は森があったであろうと推測される。

個人邸　SY 氏邸（柴崎 889）

邸宅内の右奥隅・北新田ハケの道崖上に2本のスダジイが周りの樹木より抜け出し屹立している。

＊スダジイ①（樹高 19.5m・幹周 370 ㎝）

＊スダジイ②（樹高 20.5m・幹周 309 ㎝）

個人邸　SK 氏邸（柴崎 967）

邸宅内の玄関門内側に5本のスダジイが整列植樹されている。目測では樹高・幹周ともに近値と判断し、左から3本目・4本目を調査測定した。

スダジイ5本・左から①～⑤（実測は③・④）

＊スダジイ③（樹高 24.0m・幹周 344 ㎝）

＊スダジイ④（樹高 23.8m・幹周 340 ㎝）

個人邸　KM 氏邸（柴崎 965）

邸宅内裏門入口左にクスノキの巨木がある。正面玄関は四足門。

＊クスノキ（樹高 16.9m・幹周 310 ㎝）

晩春に黄色い小さな花が咲き、実は秋 10 月頃に黒く熟す。鳥の好物で、黒くなったら数日で全部食べられることもある。枝や葉に樟脳（しょうのう）の香りがある。霊妙な木・神秘的な木という意味の「くすしき木」からこの名になった。

個人邸　UT 氏邸（柴崎 944）

脇門からの玄関に至る庭園にケヤキ巨木と美形に手入れされたスダジイの巨木がある。

＊ケヤキ（樹高 24.9m・幹周 340 ㎝）

＊スダジイ（樹高 12.8m・幹周 370 ㎝）

＊参考樹木：ザクロ（樹高 5.2m・幹周 95 ㎝）

正面玄関前、幹がねじれて支柱で支えられている。

この日、訪問した個人宅では我々の調査趣旨をご理解いただき、皆様から親切なご協力を頂いた。感謝！！

11 時 50 分、時折激しく降り出す雨の中、天王台駅に到着、第 12 回調査を終了した。反省会＆昼食は天王台2丁目「膳彩や・おうみ」で会食し解散した

（紙面の都合で追加調査報告は割愛しました）

第 113 回史跡文学散歩（報告）

「湖北に残る将門伝説の地を巡る」

越岡　禮子

3月 30 日（日）、田中由紀さんの案内で湖北の平将門ゆかりの地を訪ねた。

生憎の雨模様で参加者は十数名。地元に住み、丹念に下見をされた田中さんのガイドはみごとで、星野本家裏庭の見学と屋敷神や古い大樹の謂れなど貴重な話は収穫だった。

まず、湖北駅開設の紹介に始まり、我孫子市文化財に指定されている北向薬師堂を訪ねる。薬師三尊、十二神将が整っている薬師堂は近隣に少ない。寛文年間に建立された石仏や、この地が生地だというあの松本清氏が寄贈した会館などを見る。

中里通りの星野本家の裏庭見学後、立派な長屋門や中野治房家の煉瓦塀を見ながら成田詣の人達に反意を表わしていると伝わる首曲がり地蔵や将門の持念仏、正観世音を祀る日秀の観音寺を訪ねる。この寺の観音様は今まで秘仏で、私は美しい金色の尊像と聞くこの観音様を一度は拝観したいと思っていたが、平成二十四年から既に開帳されていると知り嬉しく思った。堂のガラス戸越しだったが内陣の奥に金色に光る端正な尊像を拝することができ、将門贔屓の私は感激。

観音寺墓地には当会初代会長の兵藤純二氏が眠っている。墓地脇を通る時、兵藤氏が元気な頃、今回と同じコースを案内して下さったことを思い出した。

芽吹きの美しい畑中の道を行き、将門が軍事に用いたという素朴な井戸を見学後、近くの将門神社のある高台へ進む。将門が亡くなったあと、その霊がこの地で対岸から昇る朝日を拝した所と伝わる。今は本殿はなく、石祠と鳥居が残るにみだが周囲は緑が濃く、アパート群がなければ往時を偲ぶのに良い所だ。

旧湖北高校南側に残る鎌倉道に入り、林や谷津、公園を抜け、昭和十九年十一月、銃後の女教師らが対岸の風早小学校での研修受講のため渡船中、突風にあい船が転覆、十八名が亡くなったその記念の碑「手賀

沼殉難教育者之碑」前で解説を聞く。今年は七十周年を迎え。十一月に供養祭があるという。

最後は中里の鎮守社・諏訪神社を訪ねる。三十年ほど前にこの地を訪ねたことがあるが周囲に人家が多く建ち、記憶の中の森閑とした社の雰囲気が失われ複雑な思いが残った。

今回印象的だったのは中里通りの旧家に成田山新勝寺祭礼のポスターを目にしたことだ。時代の流れとはいえ私にとって驚きだった。湖北は桔梗伝説や首曲がり地蔵で知られるように将門に親しみを強く抱き、将門調伏祈願の寺・成田山新勝寺を嫌っている地域と思い込んでいた。今回の散歩は新しく視点を広げる良い機会だった。

あびこだより62号

今回私の「インドの旅」の目的は、以下のとおりです。

1　お釈迦様の聖地訪問と原始仏教に少し触れる事。

2　石の山をノミで彫刻された建造物見学(アンコールワット等は石材を使用した建造物)。

3　インドの農業の潜在力を垣間見る事(12億の中国は水不足、公害問題、日照り等で起きる食料不足時に穀物の供給出来るのは、アメリカとインドの農業力でしょう・・・)。

●「インドを一口で言えば」の旅人のコメント

今回は15人の旅慣れた人々の集まり、それぞれの発言です。

①すきです②牛、犬、人が等しく一緒にくらしている③おおらか④なじめば楽しい⑤あやしいインドにはまりそう⑥混沌。カースト制度がいまだ残っている⑦22世紀、インドは農業経済で世界一となる⑧効率優先の日本とのこの暮らしのギャップ⑨不潔。権力者による浪費(お城、タージマハル)⑩大願成就。うれしい。涙。感激⑪喧噪(大声、クラクション、プージャの儀式)⑫全てが許される⑬面白すぎる⑭期待はずれ(美人が少ない)⑮カルチャーショック・・・でした。

●ある人の感想文

・インドは発展するか？　勿論、イエスである。・但し民主主義資本主義経済で発展するには次の点の改善が必要である。

①カースト制度を撤廃する。日本の例から言うと義務教育の徹底から切り崩すしかない。

②女性労働の活用。12億人の半分の女性が活用されてない。

③国土の活用。　広い国土はうらやましい。耕作地は無限にある。

それでも、民族と宗教の問題が残るであろう。

・旅の目的は達したか・

結論から言うと、インドが好きになったようだ。

望んだ雑踏はベナレスとアグラでちょっと経験しただけで、世界遺産中心の旅では無理である。次は滞在型にするか。それとも本当のインドを知るには上流の人間も知らねばならない。それは無理なら、今度は南インドを漂流するしかないか。時間が違う流れをしている亜大陸はやはり面白い。

「一口コメント」と「ある人の感想文」が異文化交流のインドの体験談でした。

●8月9日(土)の「放談くらぶ」で詳しくお話します。

第115回史跡文学散歩のお知らせ
「千駄木周辺の文人旧居を訪ねる」

千駄木周辺は今も趣ある屋敷が残っています。かつては森鴎外、夏目漱石、高村光太郎、宮本百合子等など多くの文人が住み、名作を産みました。また名作の舞台となった所も多く団子坂は「三四郎」にS字坂は「青年」に登場します。正に文学散歩に相応しいコースです。ご期待下さい。

1. 日時　九月二十一日(日)9時集合(雨決行)
　JR我孫子駅改札口内　3時頃解散
　◎メトロ千駄木駅まで切符購入
2. コース　文人旧居跡(森鴎外記念館、宮本百合子、高村光太郎)一青踏社一安田楠男邸一根津神社一須藤公園(大聖寺藩大名邸庭園)
講師・ガイド　越岡禮子氏(当会副会長)
参加費　会員　無料、非会員　500円
申し込み　TEL&FAX(七一八四)二〇四七　越岡まで　(締め切り)　9月14日(日)

手賀沼アート・ウォーク

「手賀沼と民藝の心展」

この地のシンボル手賀沼を私たちの手で、考え方で変えて次世代に引き継ぐことが大切だと考えます。そのためにも両市(我孫子市・柏市)の市民が中心になり、まず考える場創りからスタートと考えこの企画を立てました。それぞれのテーマで会場を同じくし、多くの市民にこの地と文化、歴史をより知ってもらい交流し、これから何をすることが手賀沼と私たちにとって大切なのかを問い掛け、行動する一助となれば本展は成功と言えるでしょう。その日のために一緒に考え、お会いできることを楽しみにいたしております。

(アートウォークリーフレットより)

会期　8月7日(木)～8月12日(火)午前10時～午後6時
会場　我孫子市民プラザ・ギャラリー(あびこショッピングプラザ3階)
主催　手賀沼アート・ウォーク実行委員会
後援　我孫子市、印西市、柏市、流山市、松戸市など
協力　我孫子の文化を守る会、我孫子市史センター、我孫子楽校協議会、我孫子の景観を育てる会、我孫子野鳥を守る会、我孫子文化連盟など
「会期中当番募集」
当会では本展覧会協力の一環として会期中「展覧会の見守り」要員を派遣することにしています。運営方法は「川瀬巴水版画展」と同様です。ご協力いただける方は藤井会長宛(7185-1996)ご連絡ください。

今年度会費(二千円)納入のお願い

本会はひとえに会員皆様方の会費によって運営されています。郵便振替口座(00190-3-135476)『我孫子の文化を守る会　伊藤一男』宛お振込みください。

文学掲示板

平成二十六年九月展示作品(文学の広場)

連れ立ちて夫と見渡す手賀沼に
　白鷺跳る水辺のたのし
　　柏　深谷　幸子

冬の陽に鏡にも似る手賀沼は
　魚釣る人も絶えてなかりし
　　つくし野　福井　政枝

筑波おろしわたる湖畔の枯木立
　春を夢見て寄り添ひ眠る
　　泉　福嶋　浩彦

移ろへる四季抱きて手賀の沼
　悠久の譜を奏で横たふ
　　つくし野　福地　睦男

枯れ草をゆすりて鮒の五つ六つ
　腹かえすあり重なれるあり
　　伊東市　藤田　陽

長病みの母をみおくり十日経て
　蓮の花見むと夫の言ひ出づ
　　布佐　星野　昭子

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より　杉村楚人冠

昭和六年秋

さゝやかに朝顔咲きぬ物のかげ
天の川夜半過ぎて西に流れけり
苫をはねて時問ふ水主(かこ)や天の川
引けば去り放てば來る鳴子かな
ぢゝと鳴き又ぢゝと鳴く蟲のあり
むきさしの柿のナイフやにじむ澁
怨霊の澁柿となりし物がたり
夜寒さをひとりごちつゝ通りけり
流れよる菰の荷札や後の月
献穀の一枚早き刈田かな
陵(みささぎ)に烏が鳴いて朝寒し

今後の行事予定

□ **「放談くらぶ」**
日時　8月9日(土)10時～12時
会場　エスパ、第1会議室
講師　日比野　理氏、伊藤　克彦氏、横内　照氏
演題『インドを旅して』
①「インドの宗教について」②「世界遺産インドの旅」(DVD放映)③「インドの農業について」
◎参加費　会員無料　非会員三〇〇円

プロジェクト開催予定
「関東建築探訪」
日時　7月29日(火)
場所　日銀、日本橋界隈探訪
申込み　7184-3926(牧田)

「第13回我孫子の巨木・名木を訪ねる会」
日時　7月9日(水)8時40分、我孫子駅集合
コース　東我孫子一こもれび一我孫子ゴルフ　など

当会の最近の動き(報告、予定)

散歩部会
3月30日(日)第113回史跡文学散歩
「湖北に残る将門伝説の地を巡る」
6月29日(日)、第114回史跡文学散歩
「柳田國男の住んだ布川を訪ねる」
手賀沼部会
3月27日(木)美手連運営委員会
4月6日(日)美手連理事会
6月7日(土)美手連総会と講演会
講演　相原正義氏「元漁協組合長深山正巳による「一つの手賀沼」から」
研修部会
4月6日(日)放談くらぶ「相馬霊場八十八ヶ所物語(2)」講師三谷和夫氏
6月1日(日)放談くらぶ「杉山英先生の功績」
講師　田中由紀氏「紙芝居口演」、大井正義氏
次回役員会予定
日時　9月7日(日)13時半～15時半
場所　けやきプラザ10階会議室
(入会員紹介) 4月から6月の間に次の方々が入会されました。小島紀彦、納見美恵子(以上2名)

「さがそう!我孫子のいろいろ八景　其の三」
我孫子市では市民の景観への関心を高め、景観資源の発掘を目的として「我孫子の八景探し」を実施しているが、今回は「桜の花のある風景」と「水のある風景」の2つのテーマについて募集する。
応募内容　「桜の花のある風景」、「水のある風景」のよいと思う場所何か所でも
応募規定　応募用紙またはA4判程度の用紙に場所・選んだ理由・住所・氏名・電話番号を明記
期間　平成26年7月1日～8月31日
応募方法
方法①投函　所定の場所に設置してある応募箱に投函
方法②郵送　〒270-1192我孫子1858
我孫子市役所都市計画課景観推進室
方法③メール keikan@city.abiko.chiba.jp
主　催　我孫子市
企画運営　我孫子の景観を育てる会

編集後記　梅雨の季節の花といえばアジサイだが、個人的にはクチナシも捨てがたい。真白い花に似合わないあの強烈な香りが印象的である。イタリア語ではサイゼリヤ、どこかで聞いたような▲一昨年を最後に取り止めとなった手賀沼水生植物園で行われていた「あやめまつり」、この時期の我孫子の名物行事だった。ところでこの「あやめまつり」の花は実はハナショウブ。だからと言って「看板に偽りあり」とはならない。「アヤメ科」にはアヤメ、ハナショウブ、カキツバタ、グラジオラス、フリージア、クロッカスなどがあり、これらを総称して表すのに、ひらがなで表記をするのは間違いではないのだそうだ。(美崎)